

# 「天草温泉小唄」

作詩 野口雨情  
作曲 古関裕而

湯治するなら下田のお湯で 今に変わらぬ白鷺湯

瀬戸に有田に陶器の元は 掘って積み出す茶碗石

波の花咲く妙見浦に ぬれて啼くのは磯千鳥

土井の老松伐らせてならぬ 伐れば下田の湯もか  
れる

三州岳から朝立つ風は 下田繁昌と吹き下ろす

鮎は若鮎湯の香を慕ひ 河鹿鈴ふる瀬をのぼる

下田川筋蛍の頃は 通ふ姿も隠されぬ

今宵白鷺温泉泊り 旅の労れ<sup>つか</sup>を湯で流す

赤い夕日は天草灘に 沖の鶉の鳥やいつ帰る